白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

- 河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

2009 年

富山県射水市教育委員会

調査区全景（北西から）

出土遺物集合写真

白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

－河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2009年

富山県射水市教育委員会

例　　言

1. 本書は富山県射水市鷲塚に所在する白石遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は北陸新幹線整備事業計画に伴う、河上金物株式会社濁水処理施設移設に合わせて、射水市教育委員会・河上金物株式会社・北陸航測株式会社の3者間で協定書を取り交わし、実施した。
3. 調査期間・面積

　　現地調査　　平成20年12月1日～平成21年2月13日・337㎡

　　室内整理作業　　平成20年12月15日～平成21年5月29日

4. 調査は、射水市教育委員会が主体となり、同文化・スポーツ課文化係　尾野寺克実、金三津英則の監督のもと、北陸航測株式会社　稲垣裕二、菊地由里子が担当した。
5. 本書の執筆・編集は、金三津英則、稲垣裕二、菊地由里子、朝田要が行った。
6. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏、諸機関からご教示とご協力を頂いた。記して謝意を表す。(五十音順　敬称略)

　江藤敦　鹿島昌也　野垣好史　古川知明　宮田進一

7. 調査参加者は以下のとおりである。(五十音順　敬称略)

　[現地作業参加者]

　明石秋夫　岩脇清次　上田一夫　大垣敬二　京角三朗　酒井稔　清水憲一　高波宗之　道谷茂雄　道徳清一　中井良作　中村弘　西野彰　端充弘　八田弘　濱野勇　三上正夫　水上吉郎　山本義男

　[室内整理作業参加者]

　池田昌美　坂高宏枝　高木幸子　藤井美紀

8. 発掘調査の出土遺物及び記録資料は、射水市教育委員会が保管している。

凡　例

1. 本書で使用した方位は真北で、標高は海抜高を用いた。
2. 遺構の表記は次の記号を用いた。

　SD：溝跡　SE：井戸跡　SK：土坑　SP：ピット　SX：不明遺構

3. 調査にはグリッド法を用いた。大グリッドは東西方向をアルファベット（A、B･･･)、南北方向を算用数字（1、2･･･）とし、大グリッド内を2m小グリッドに細分化し（第3図参照)、これらを組み合わせて表記した（例：A1-1)。また、出土遺物には管理番号（001～）を付け、遺物注記は遺跡名（SI)・管理番号・グリッド名・遺構名・層位・日付記入を基本とした。
4. 遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は1/4を基本としたが、縮尺の異なるものはその都度縮尺を示した。
5. 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
6. 土色・土器胎土色の観察には農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』(2002年版）を使用した。
7. 遺構・遺物実測図内の細部指示は以下のとおりである。

：柱根　　：煤、油煙痕　　：漆器文様部　　：染付部

目　次

第１章　遺跡の位置と環境……1
第２章　調査の経緯……2
第３章　遺構及び出土遺物……4
第４章　白石遺跡自然科学分析……9
第５章　総括……11
引用・参考文献……12

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡……1
第２図　調査区位置図……2
第３図　グリッド配置図……3
第４図　基本土層図……3
第５図　遺構実測図［A･B-1 区］……5
第６図　遺構実測図［B-2 区］……7
第７図　遺構実測図［C 区］……8
第８図　樹種観察図……10
第９図　遺構配置図……11
第10図　白石遺跡出土漆器一覧……12
第11図　遺物実測図［SD01　SD06　SD07　SD08］……13
第12図　遺物実測図［SD08　SD09］……14
第13図　遺物実測図［SD09　SD40　SD48　SD53　SD100　SK03　SK42　SE96　包含層　表土中］……15

表目次

第１表　樹種同定一覧……9
第２表　樹種観察表……9
第３表　遺物観察表……16
第４表　遺物観察表［金属製品］……16
第５表　遺物観察表［石製品］……16
第６表　遺物観察表［漆器］……16
第７表　遺物観察表［木製品］……16

巻首図版目次

巻首図版　白石遺跡遠景　白石遺跡出土遺物

図版目次

図版１　調査区全景等　調査区全景　遺物出土状況［B-2 区］SD08……17
図版２［A 区］　調査区完掘状況　遺物出土状況　遺構完掘状況　SD01　SD06……18
図版３［B-1 区］調査区完掘状況　遺物出土状況　土層　遺構完掘状況　SD06　SE96　SD07……19
図版４［B-2 区］調査区完掘状況　遺物出土状況　遺構完掘状況　SD08　SD09……20
図版５［C 区］　調査区完掘状況　遺物出土状況　遺構完掘状況　土層　SP69　SP86　SD09……21
図版６　作業写真……22
図版７　出土遺物　SD01　SD06　SD07　SD08……23
図版８　出土遺物　SD09　SD40　SD48　SD53　SD100　SK03　SK42　SE96　表土中　包含層……24

第１章　遺跡の位置と環境

富山県西部に位置する射水市は、平成17年に射水郡の全町村(小杉町、大門町、大島町、下村)と新湊市が合併して発足した。地形をみてみると、北側には富山湾に面して射水平野が広がり、南側には小丘陵からなる射水丘陵を望む。庄川と神通川に挟まれた射水平野は、東西約11km、南北約7kmを測る低湿地帯である。この地域は、約6,000年前の縄文海進期には標高２～３ｍの等高線あたりまでが海であったが、地球寒冷化に伴う海退によって、縄文時代後期～晩期には砂丘と後背湿地が形成された。そののち射水丘陵に源を持つ中小河川が丘陵を浸食し、下流域に運搬された土砂が、蛇行した河川に堆積したために、河川の流れが澱んで沼沢地となった。この沼沢地などに泥炭が堆積することにより、弥生時代には現在の海岸線付近にいたる射水平野が形成された。

旧小杉町鷲塚・白石地内にある白石遺跡は、海岸線から約4.5km内陸で標高約１～２ｍの平野部に位置し、東西に延びる国道８号・ＪＲ北陸本線に南北を、下条川・新堀川に東西を挟まれている。

弥生時代中期は、射水平野での稲作開始の時期とされており、これ以降、平野部で遺跡が確認されるようになる。後期から古墳時代前期にかけては平野部の遺跡が急激に増え、下条川流域周辺の弥生時代の遺跡としては、井戸や溝などの遺構が検出された戸破若宮遺跡、平成３年度に本調査され多量の土器が出土した小杉伊勢領遺跡などがある。また奈良・平安時代から中世にかけての遺構・遺物も、周辺の遺跡の大半で見つかっている。

文献によると、下条川以東の戸破・手崎・小白石などには、平安時代から室町時代末までの約500年に渡って倉垣庄が存在したと云われており、庄内には加茂社の末社が二十社前後と多く分布している。これらの末社はいずれも近世以前の親村に限られ、その勧進は古く、南北朝期か室町初期と考えられている[木倉1965]。

このように下条川流域の平野部には、弥生時代中期以降のさまざまな時代の遺跡が分布し、文献上でも確認できることから、現代まで連綿と続く人々の生活の営みをうかがうことができる。

No.	遺跡名	主な時代
1	白石	弥生・古墳・中世
2	HS-04	古墳・中世
3	針原西	弥生～中世
4	稲積	古代・中世・近世
5	戸破若宮	弥生・中世
6	鷲塚	古墳
7	鷲塚村中	中世・近世
8	白石Ⅱ	中世
9	加茂社	古代・中世・近世
10	津幡江	中世・近世
11	下村白石	中世・近世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1/50,000）

第２章　調査の経緯

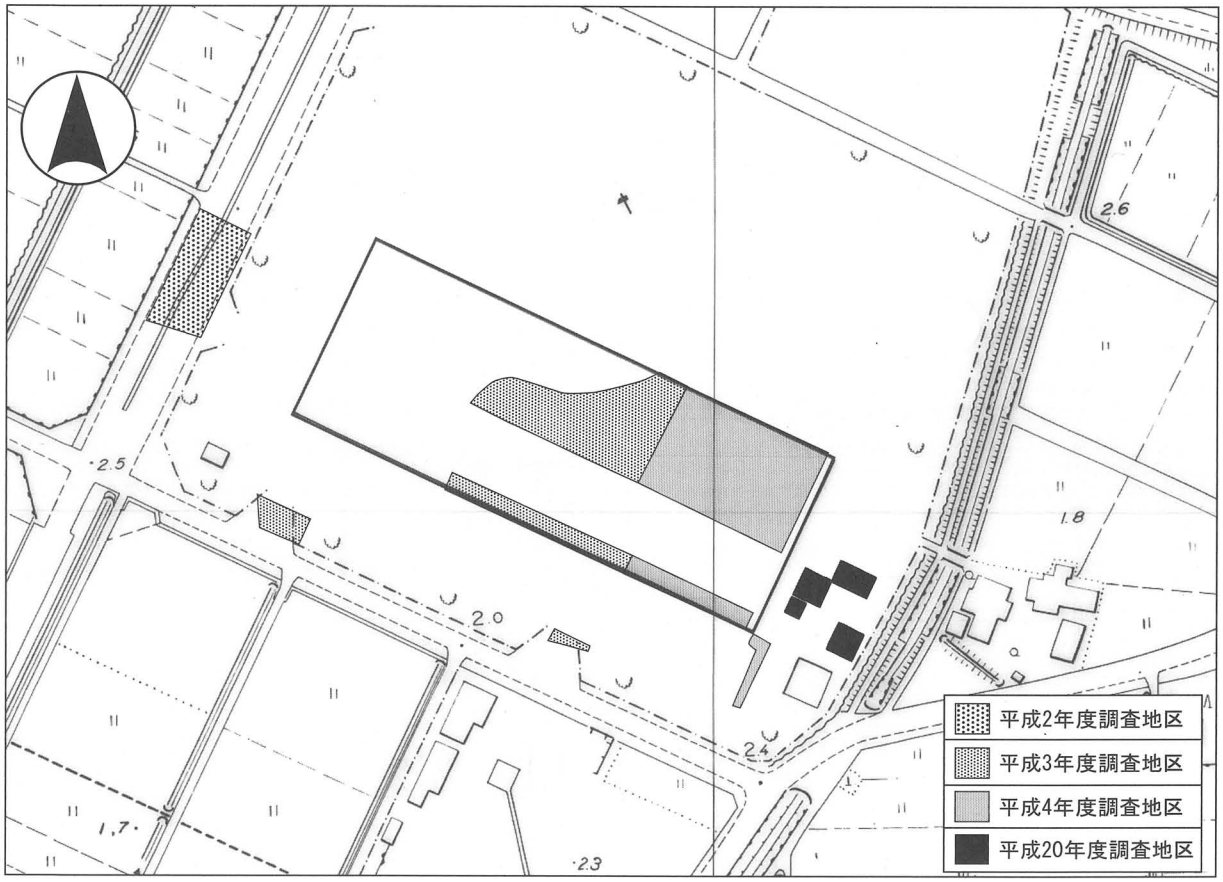
第１項　調査に至る経緯

平成19年11月、北陸新幹線整備事業計画に係る移転補償費用の算定調査を実施している株式会社国土開発センターから、埋蔵文化財の取り扱いについての照会があった。計画では、射水市鷲塚地内にある河上金物株式会社（以下「事業者」という。）敷地南端の濁水処理施設が、北陸新幹線本線ルート上にあたり、その北側にある同社の調整池に移設するものであった。移転予定地を含む敷地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である白石遺跡の範囲に該当し、文化財保護法第93条第１項の届出及び埋蔵文化財の保護措置が必要となる土地である。

また、移設予定地は、平成２年の試掘調査で縄文時代・中世の遺構・遺物が確認されている範囲であり、濁水処理施設を移設するには、埋蔵文化財の現状保存が不可能となる部分について記録保存措置を講ずる必要があった。

翌年８月には、事業者との用地交渉を担当する県土地開発公社から本発掘調査の方法について協議があった。当該地での発掘調査は、新幹線整備工事の工程上、平成21年３月までには完了する必要がある。しかし、調査についての具体的な調整を行えるのは10月以降であり、予算の確保等を考慮すると市直営での調査では希望期間までの現地引渡しは不可能な状況であった。

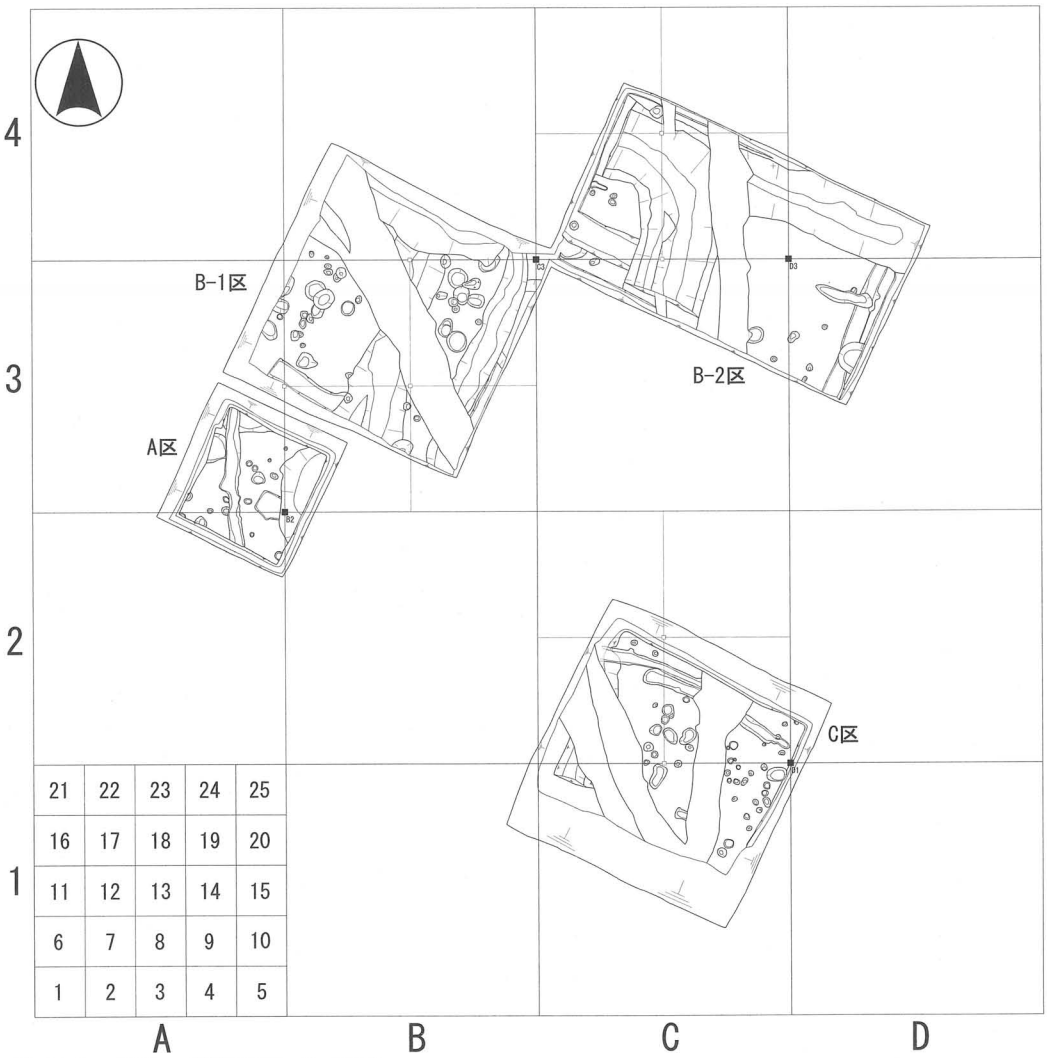
平成20年９月以降、事業者と射水市教育委員会との間で４度の協議を重ね、11月６日には事業者から民間発掘業者へ調査業務を委託する旨の協議確認書を取り交わした。その後、事業者が北陸航測株式会社を発掘調査担当に選定し、射水市教育委員会の監理のもと、調査を実施することとなった。11月25日に原因者である河上金物株式会社と調査担当である北陸航測株式会社及び監理担当の射水市教育委員会の三者間で協定を締結し、12月１日より現地における発掘調査を開始した。



第２図　調査区位置図（1/2,500）

第２項　調査の方法

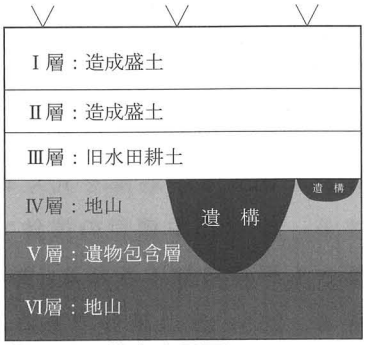
現地確認後、平成16年度北陸新幹線整備事業にて設置した４級基準点を基に基準点・調査区域を設定し、バックホウにて表土を除去した。グリッドの設定には世界測地系を使用した。A1南西隅（X=80,520、Y=-3,750）を起点とし、真北を基線とした10m大グリッドと補足的に５mグリッドを調査区域内を網羅するよう設置した。さらに10mグリッドを2m方眼の小グリッドに細分し遺物一括取上げ・管理に用いた。平行して調査区排水溝掘り、遺構検出作業を人力で行い、検出完了後遺構概略図(1/100)を作成し検出写真を撮影した。調査区をそれぞれA・B-1・B-2・C区に区分けし掘削作業を行った。撮影には主に35mm（白黒・ポジ）を、調査区完掘時には６×７判を、補足的にデジタルカメラを併用して写真撮影を行った。遺物取上げ・平面記録は光波測量器（トータルステーション）を用いた。



第３図　グリッド配置図（1/300）

第３項　基本層序

基本層序は上層からⅠ層：灰黄色土（2.5Y6/2）、Ⅱ層：黄灰色土（2.5Y6/1）、Ⅲ層：褐灰色土（7.5YR6/1）、Ⅳ層：淡黄色粘土（2.5Y8/4）、Ⅴ層：暗赤褐色粘土（5YR3/2）、Ⅵ層：オリーブ灰色粘土（5GY5/1）となる。Ⅳ層は地山（旧地表面）で、遺構は全てこのⅣ層から掘り込まれている。Ⅴ層は遺物包含層で、縄文土器を数点確認した。調査区全域にてⅢ層が深く堆積している部分があり、本来の遺構検出面は今回の検出レベルよりも高い位置だったと考えられる。



第４図　基本土層図

第3章　遺構及び出土遺物

SD01（第5・11図、図版2）

A区内を南北に延伸する溝である。SK11を切る。深さ0.1mを測る。断面形は皿状を呈する。

1は珠洲擂鉢である。口縁端部が肥厚する外傾・方頭口縁で、端面中央部が窪んでいる。

SD06（第5・11図、図版2・3）

A・B-1区を南北方向に延伸する溝である。A区中央から南東方向へ湾曲する。SD40に切られる。幅1.5～2.9m、深さ0.8mを測る。断面形は皿状を呈する。B-1区南側では、下層にオリーブ黒色粘土層が堆積している。先に下層が区画溝として機能しており、溝埋没後上層に排水・区画などの機能を持った溝が形成されたと考えられる。遺物は中世土師皿・白磁・珠洲・銅銭・木製品などが出土している。

2はロクロ成形の中世土師皿である。口縁端部を丸く仕上げる。3・4は白磁碗である。3は灰白色の釉を薄く均一に全面施釉する。4は灰白色の釉が内面全体から体部外面下部まで均一に薄くかかる。5は珠洲甕で、長頸で内屈する方頭口縁を持つ。6は銅銭である。元豊通寶が2枚、天聖元寶が1枚重なった状態で出土した。7は不明木製品である。下端部が削られる。

SD07（第5・11図、図版3）

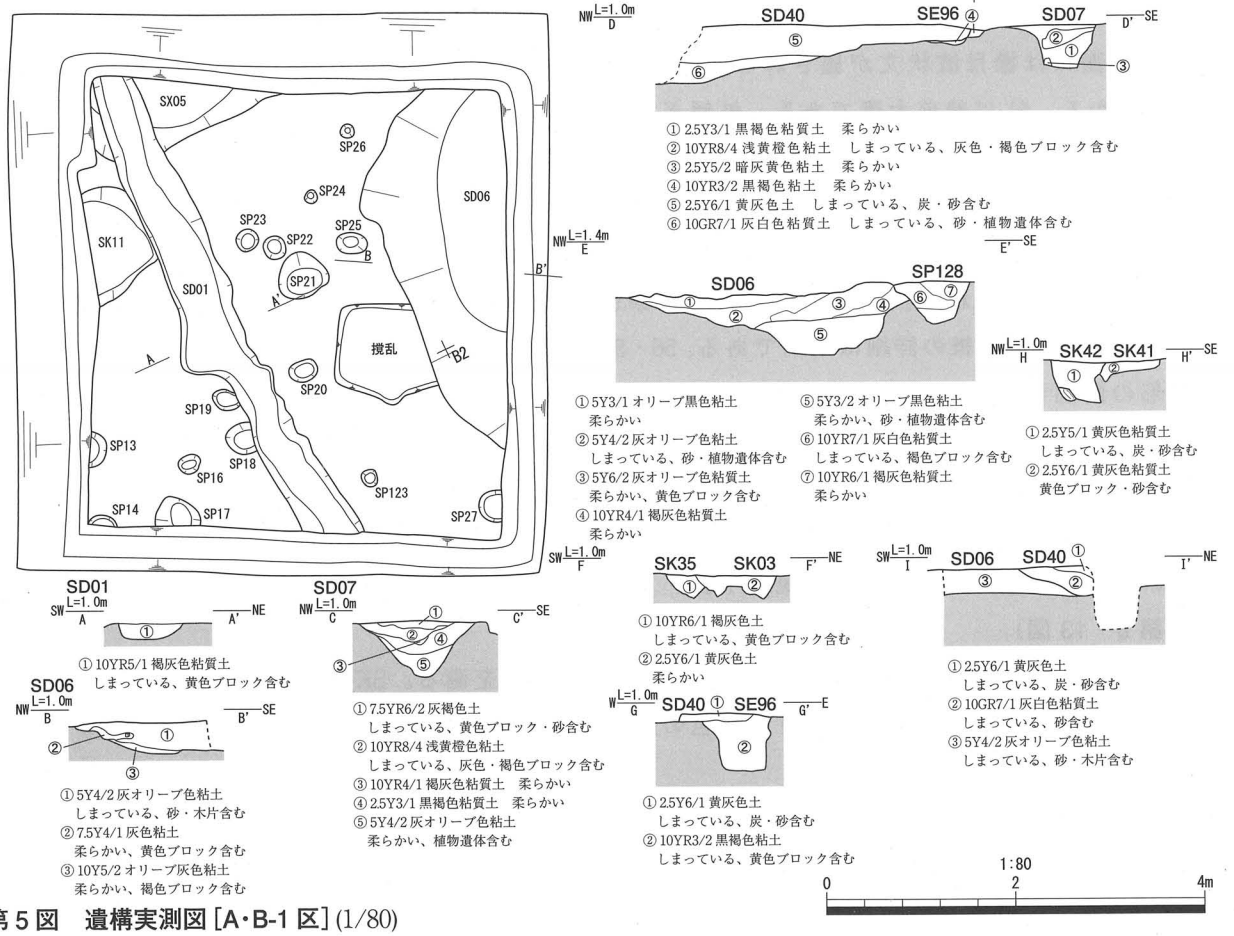
B-1区東側を南北方向に延伸する溝である。SD06と平行に延伸する。調査区東壁際には不明遺構を確認したが、調査用排水溝設置の影響から切り合い関係は不明である。最大幅1.3mを測る。断面形は逆台形状を呈する。下層の灰オリーブ粘土層には植物遺体を含む。遺物は上層から中世土師皿・青磁・珠洲・下層からは中世土師皿・箸状木製品などが出土している。

8～10は中世土師皿である。8は非ロクロ成形で口縁部を摘み上げる。9・10はロクロ成形で、9は口縁部外面を押さえ、端部を軽く摘み上げる。口縁部全体にタール状の油煙が付着する。10は口縁部が上方に伸び一部に油煙が付着する。11は青磁碗である。胎土は焼成不良。灰黄色の釉は高台内側を除いて全体にかかるが、気泡状のムラがみられる。12・13は珠洲擂鉢で、12の底部には回転糸切痕が残る。14は箸状木製品である。両端が削られ、断面形は方形である。

SD08（第6・11・12図、図版4）

B-2区北側を東西方向に延伸する大溝である。SD48を切る。幅2.3～2.7m、深さ0.8mを測る。覆土は下層のオリーブ灰色粘土と上層の灰褐色粘質土に大別できる。覆土の特徴がSD09と類似しており、SD09に切られているがほぼ同時期に機能していたと考えられる。遺物は上層から中世土師皿・白磁・珠洲・越中瀬戸・鍔が、下層からは珠洲・石製品・漆器・下駄などが出土している。

15～18は中世土師皿で、15・16は非ロクロ成形、17・18はロクロ成形である。15の口縁部は軽く外反し、端部を丸くおさめる。16の体部は上位で器厚が肥大し口縁端部を摘み上げる。17の体部は中位で外側にやや屈曲する。口縁部は外側を押さえ、端部は摘み上げ薄く仕上げる。18の体部は中位で稜をつけて内側にやや屈曲したのち外反し、斜め上方に延びる。口縁端部を薄く仕上げる。15・17・18の口縁部内外面、16の内面底部に油煙が付着する。19は白磁の皿である。灰白色の釉が全体に薄く均一にかかる。体部は下部で内側に屈曲し内湾気味に立ち上がる。20は珠洲擂鉢である。器厚はやや肥大し、端部を丸くおさめる。21は珠洲甕である。頸部が”く”の字状に折れ、端部が外傾する。22は越中瀬戸の擂鉢である。内外面に錆釉がかかる。23は片口鉢である。桑山石製で、内外面とも平らに加工される。24は石臼である。目のパターンは細かい。25は刀の鍔である。厚み0.15cmを測る。26～29は漆器である。塗膜は未同定のため実見による判断となるが、全て総黒色漆塗りの漆器と推定される。26は椀の高台部で、内面には赤色漆で三つ巴の文様が描かれる。高台はやや外



第５図　遺構実測図［A・B-1 区］(1/80)

側にふんばり、内面は丸みを帯びる。27・28は小皿で、内面には赤色漆で植物系の文様が描かれる。29は椀で、体部は高台から外側に広がり垂直気味に上がる。内面には赤色漆で扇の文様が大きく描かれる。30は露卯下駄で後尾穴部分が破損している。31・32は連歯下駄で前緒穴から前部が欠損する。

SD09（第6・12・13図、図版4・5）

B-2・C区内を南北方向に、B-2区中央から北西方向に延伸する大溝である。SD08を切る。幅2.6～3m、深さ1.5mを測る。断面形は逆台形を呈する。覆土は下層の暗オリーブ灰色粘土と上層の灰褐色粘質土に大別できる。B-2区中央では一部0.2～0.3m程深くなる。遺物は上層から中世土師皿・青磁・瀬戸美濃・珠洲・越前・越中瀬戸が、下層からは中世土師皿・瀬戸美濃・珠洲・漆器・箸状木製品・曲げ物底板・下駄などが出土している。木製品は、SD08同様下層のみから出土している。数点近世遺物（越中瀬戸・伊万里）が出土しているが撹乱による混ざりこみと考えられる。

33～40は中世土師皿で、33・34・36～39は非ロクロ成形、35・40はロクロ成形である。33は口縁部を薄く仕上げる。34は体部が外反気味に立ち上がり、中位で外側に屈曲し伸びる。35の体部は中位でやや外反し伸びる。口縁部は薄く仕上げ、端部を摘み上げる。36は口縁部でやや外反する。37は底部外面中央を指によって押し上げる。口縁部外面は横1段ナデし、端部を摘み上げる。38の体部は中位で外反する。39は底部外面中央を指によって押し上げる”へそ皿状”のものである。40の体部は中位で内傾する。33～35の口縁部には部分的に油煙が付着する。36～38は体部全体に煤が付着し、38の口縁部には部分的にタール状の油煙が付着する。41は竜泉窯系青磁碗である。オリーブ灰色の釉が高台内側を除く大部分にかかる。42～44は瀬戸美濃の天目茶碗で、黒褐色の鉄釉が体部内面全体から外面下部まで均一に薄くかかる。42・43の体部外面下部には暗褐色の錆釉を施す。43の体部は直線的に立ち上がり、中位でやや内側に屈曲したのち上方に伸びる。44の体部外面下位は露胎している。45は伊万里碗である。内外面に染付が描かれ、内面中央には『福』の字が描かれる。46～49は珠洲である。46・47は擂鉢で、46は体部上位～口縁部に回転ナデを施す。48は甕、49はR種壺で、49の体部外面には櫛目波状文が施される。50は越中瀬戸の擂鉢である。暗赤灰色の錆釉が内外面全体に薄くかかる。51は越前大甕である。外傾ぎみに直立する長い頸部を持つ。52～55は漆器である。塗膜は未同定のため実見による判断となるが、全て総黒色漆塗りの漆器と推定される。52～54は小皿で、内面に赤色漆で扇文が描かれる。52は底部から体部にかけて厚く仕上げる。53の口縁部は外側に立ち上がり、高台部はやや外側にふんばる。54は体部から口縁部までゆるやかに立ち上がる。組み物の食器と考えられる。55は椀で、内外面に赤色漆で文様が描かれる。外面の文様には引掻（針描）技法が用いられるが文様の詳細は不明である。56・57は箸状木製品である。両端が削られる。56は方形、57は円形の断面形である。58は曲げ物の底板である。断面には木釘が残る。59は露卯下駄で前緒穴と前歯差込部が残る。60は釣瓶用部材である。中央を削り両端には紐を引っ掛けるための加工を施す。

SD40（第5・13図）

B-1区北側を東西方向に延伸する溝である。SD06を切る。深さ0.67mを測る。

61は珠洲甕の体部片である。やや焼成不良。

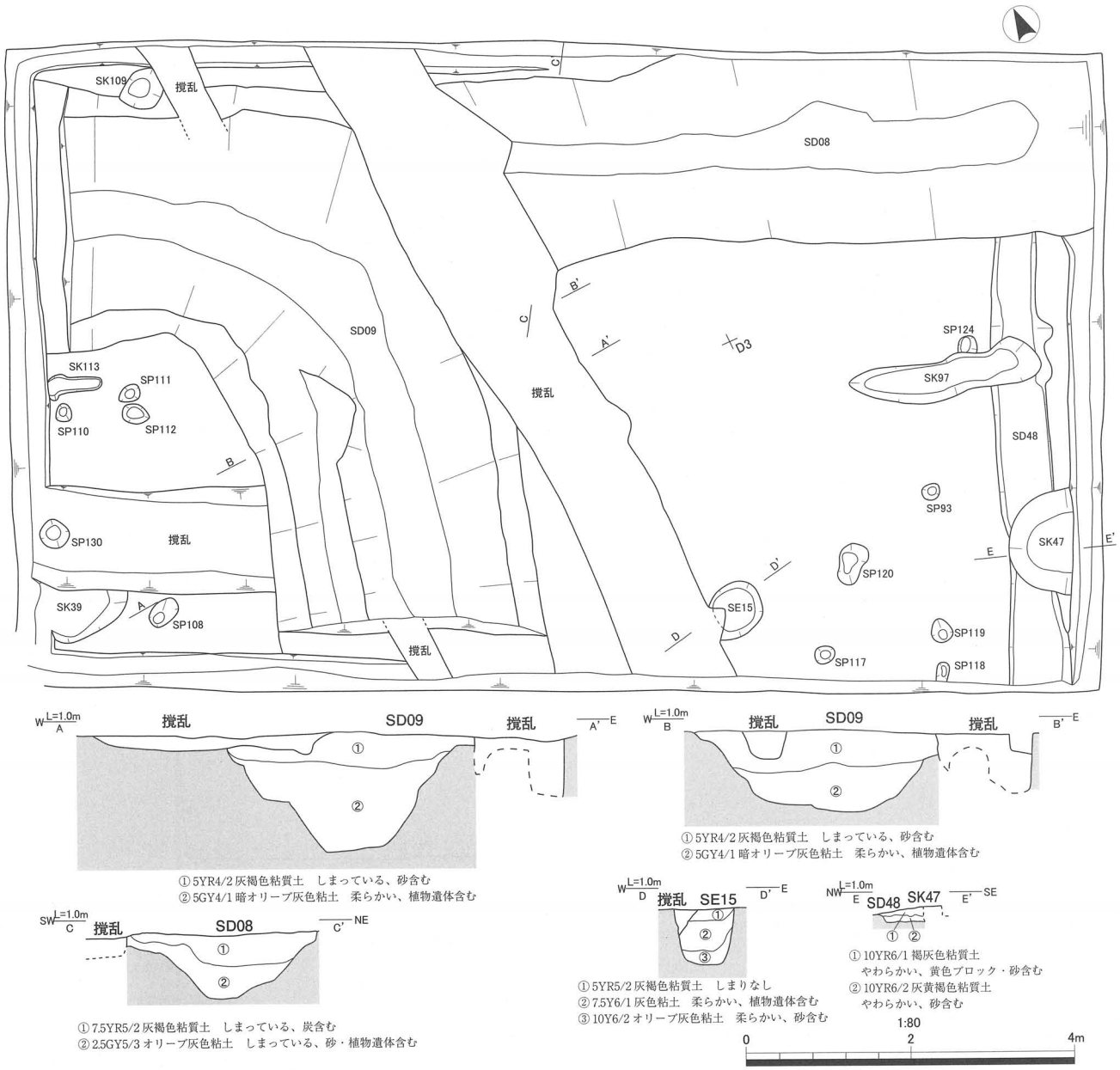
SD48（第6・13図）

B-2区東側を南北方向に延伸する溝である。幅0.5～0.78mを測る。SK47に切られる。

62は瀬戸美濃の小皿である。灰オリーブ色の灰釉が内面全体から外面の口縁部までかかる。

SD53（第7・13図）

C区北側を東西方向に延伸する溝である。SD100に切られる。幅0.47mを測る。覆土は上層が褐灰色土、下層は黄灰色土で水平に堆積する。遺物は青磁が出土している。



第 6 図　遺構実測図［B-2 区］(1/80)

63 は竜泉窯系青磁碗の口縁～体部片である。釉は鮮やかな翡翠色で内外面に均一に厚くかかる。

SD100（第 7・13 図）

C 区北側にて南北方向に延伸する溝を検出した。SD53 と同軸方向に延伸する。

64 は瀬戸美濃の皿である。灰オリーブ色の灰釉が全面に薄く均一にかかっている。

SK03（第 5・13 図）

B-1 区西側にて検出した。長径 0.85m、短径 0.74m、深さ 0.15m を測る。断面形は楕円形を呈する。

65 は竜泉窯系青磁碗の底部片である。全体にオリーブ灰色の釉薬がかかり、高台内側のみ露胎する。

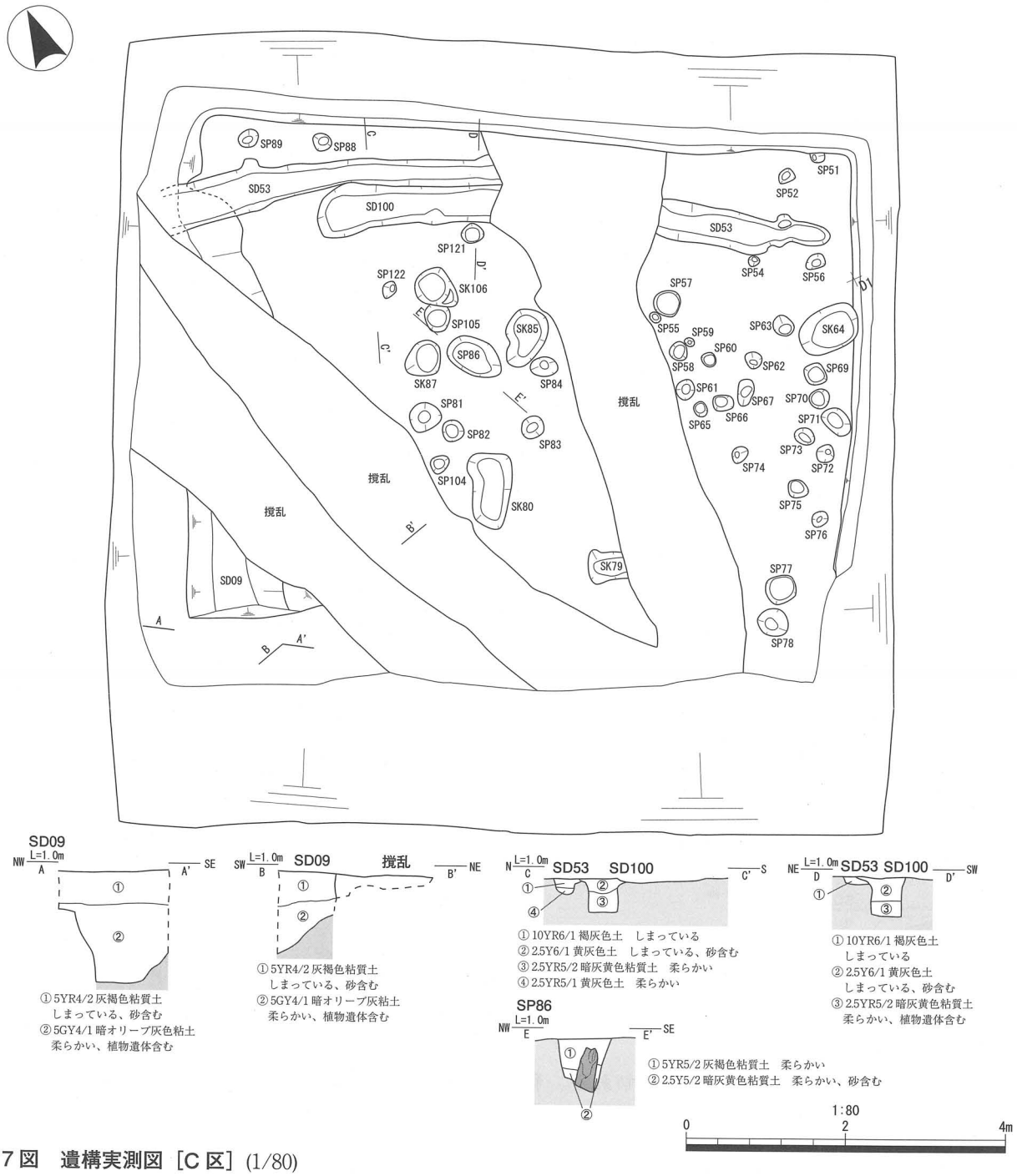
SK42（第 5・13 図）

B-1 区中央にて検出した。覆土は黄灰色粘質土で炭・砂を含む。断面形は楕円形を呈する。

66 は中世土師皿である。体部が底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は内湾気味に丸くおさまる。内面は全体に横ナデが、体部外面には下位に一段横ナデされる。非ロクロ成形。

SP86（第 7 図）

C 区中央にて柱根を伴う柱穴を検出した。材はバラ科サクラ属。



第7図　遺構実測図［C区］(1/80)

SE96（第5・13図・図版3）

B-1区北側にて検出した。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.8mを測る。断面形は楕円形を呈する。

67は仕上げ砥石である。一箇所、木組みと砥石の間に木製の楔を打ち込んで砥石を固定してある。砥石には石割の際に生じた筋状の痕跡が見られる。木組みは全体的面加工が施されている。

包含層（第13図）

C区を除く調査区下層に遺物包含層を確認した。縄文土器が破片のみ4点出土している。

68・69の外面には縄文が施されているが、時期を示すほどの残存量が無いため時期は不明である。

表土中（第13図）

70は茶臼の下臼である。卸し目がわずかに確認できる。C区SD09近く撹乱内から出土しており、SD09に関連する遺物の可能性がある。

第４章　白石遺跡自然科学分析

（株）吉田生物研究所

第１項　試料

試料は小杉町白石遺跡から出土した容器３点、建築部材１点、用途不明品４点の合計８点である。

第２項　観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

No.1 は数 mm 立方の試料をエポキシ樹脂に包埋し研磨して、木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）面の薄片プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

第３項　結果

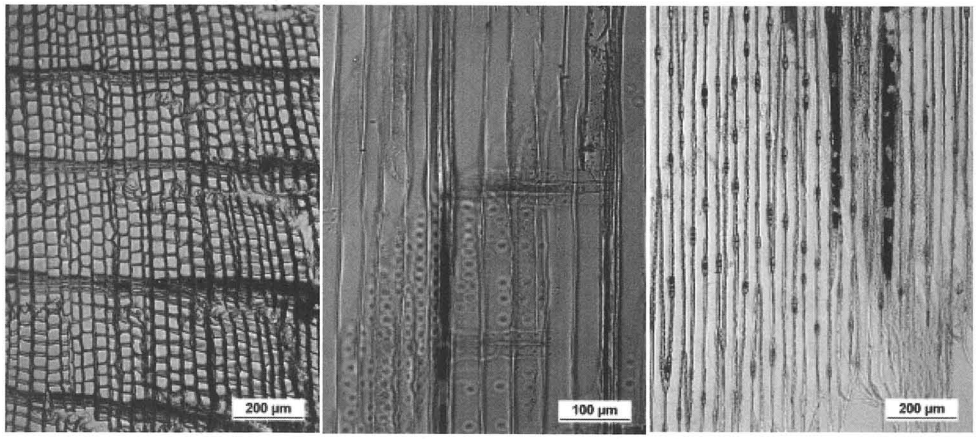
樹種同定結果（針葉樹２種、広葉樹５種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

第１表　樹種同定一覧

No.	遺物No.	区・遺構名	品名	樹種
1	-	A 区 SX05	木片	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. Prinus Loudon syn.Diversipilosae, Dentatae)
2	-	B - 1 区 SD06	板状木製品	ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）
3	-	B - 1 区 SD07	板状木製品	スギ科スギ属スギ (Cryptomeria japonica D.Don)
4	29	B - 2 区 SD08	漆器	トチノキ科トチノキ属トチノキ（Aesculus turbinata Blume）
5	-	B - 2 区 SD09	漆器	ブナ科ブナ属（Fagus sp.）
6	-	B - 2 区 SD09	漆器	ブナ科ブナ属（Fagus sp.）
7	-	C 区 SP86	柱根	バラ科サクラ属（Prunus sp.）
8	-	C 区 SD09	板状木製品	カバノキ科ハンノキ属（Alnus sp.）

第２表　樹種観察表

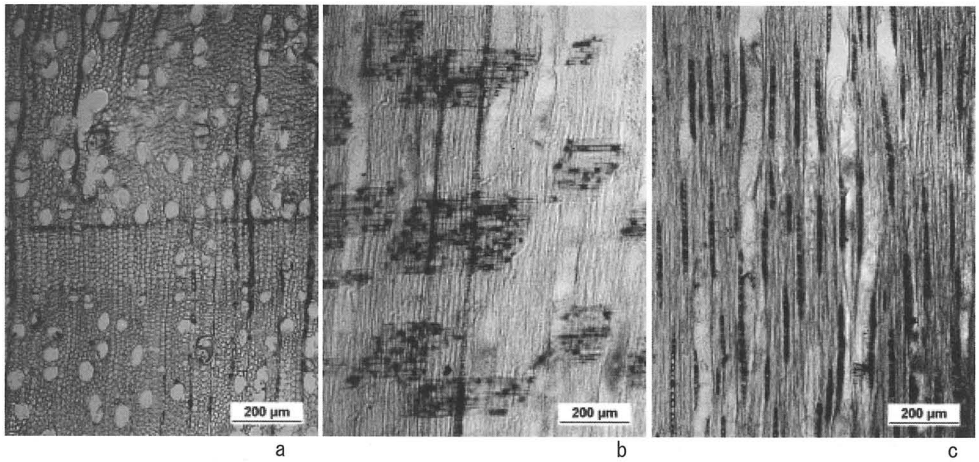
木製品	利用樹種	No.	点数	材質（考察）
板状木製品	アスナロ属	2	1	木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。
漆器	トチノキ	4	1	散孔材である。木口ではやや小さい道管（～80 μm）が単独かあるいは２～４個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は１～３細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の１～２列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300 μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。
	ブナ属	5,6	2	散孔材である。木口ではやや小さい道管（～110 μm）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、２～３列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、２～３列、広放射組織の３種類がある。広放射組織は肉眼でも１～3mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。
柱根	サクラ属	7	1	散孔材である。木口ではやや小さい道管（～100 μm）がほぼ一定の大きさで、単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なり分布している。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は１～４細胞列、高さ～1mm からなる。サクラ属はサクラ、ヤマナシなどがあり、本州、四国、九州、琉球に分布する。



a　　b　　c

1. No. 2 アスナロ属
　a. 木口
　b. 柾目
　c. 板目

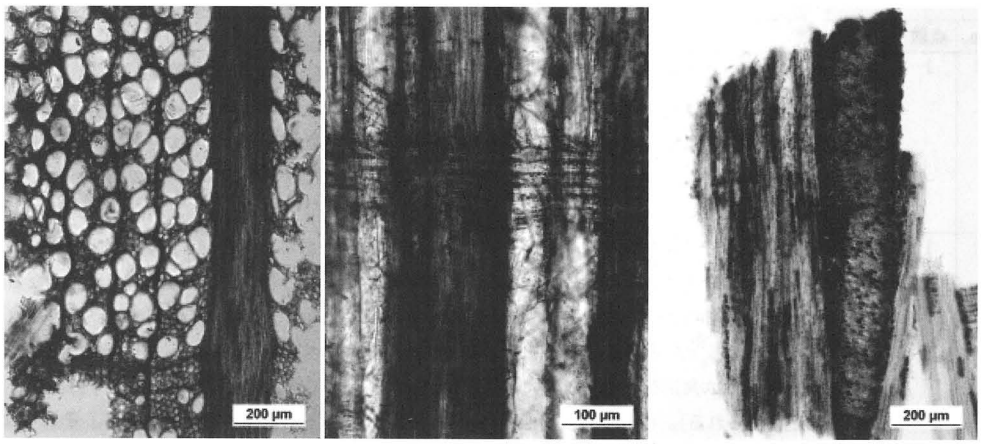
遺物 No.　:-
品　　名：板状木製品



a　　b　　c

2. No. 4 トチノキ
　a. 木口
　b. 柾目
　c. 板目

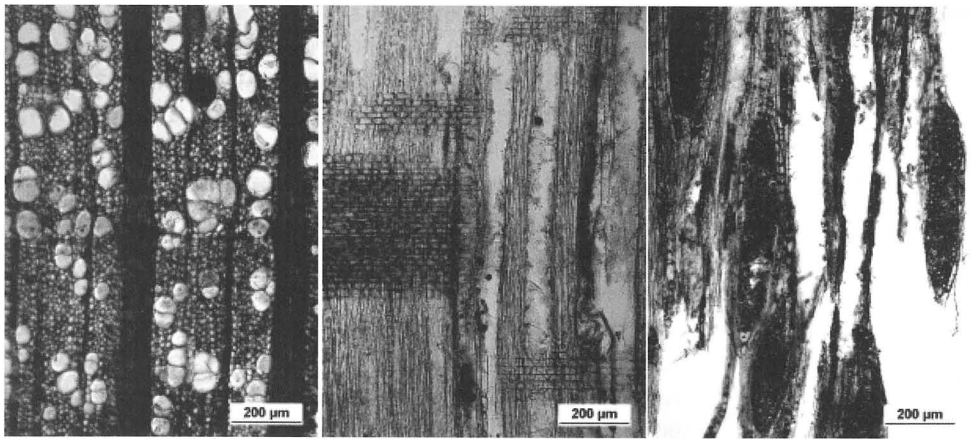
遺物 No.　:29
品　　名：漆器



a　　b　　c

3. No. 6 ブナ属
　a. 木口
　b. 柾目
　c. 板目

遺物 No.　:-
品　　名：漆器



a　　b　　c

4. No. 7 サクラ属
　a. 木口
　b. 柾目
　c. 板目

遺物 No.　:-
品　　名：柱根

第８図　樹種観察図

第5章　総　括

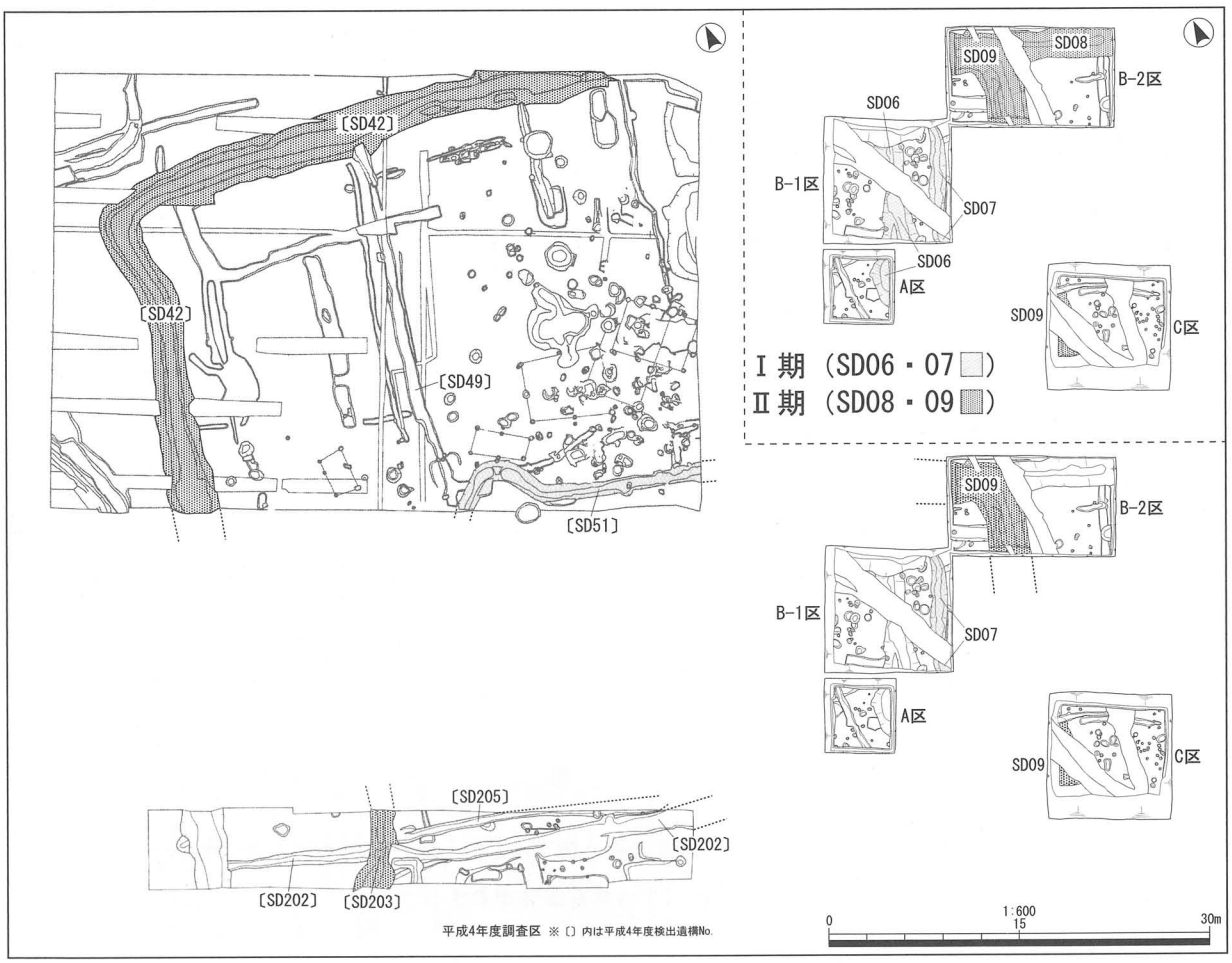
第1項　平成4年度調査結果と今回の調査結果を踏まえて ※〔〕内は平成4年度検出遺構No.

平成4年度調査では、北側調査区にて外周をL字に延伸する〔SD42〕、調査区中央を南北方向に延伸する〔SD49〕、遺構集中地区の南側を東西に延伸する〔SD51〕が確認されている。南側調査区では調査区中央を南北方向に延伸する〔SD203〕、調査区内を東西方向に延伸する〔SD202〕・〔SD205〕が確認されている（第9図参照）。規模・方向性から〔SD42〕は〔SD203〕に、〔SD49〕は〔SD202〕・〔SD205〕に接続する可能性がある。これら溝はいずれも排水などの機能を兼ねた区画溝と考えられる［桐谷1994］。

Ⅰ期　A・B-1区で検出したSD07は断面形態の特徴から〔SD51〕に接続する可能性が高い。遺物は中世土師皿・青磁・珠洲・箸状木製品が出土している。また、SD07と平行して延伸するSD06からは中世土師皿・白磁・珠洲・銅銭・木製品が出土しており、両溝とも15世紀末頃に機能していた区画溝だと考えられる。

Ⅱ期　B-2区にてSD08をB-2・C区にてSD09を検出した。両溝とも下層からは木製品を含む15世紀末～16世紀中葉頃の遺物が出土している。SD08上層からは越中瀬戸が、SD09上層からは越中瀬戸・伊万里といった近世の遺物が出土しており、両溝とも下層が機能した後、近世まで時間を費やしながら埋没していったと推定される。また、SD09は最深部で1.5mを測り、同様の規模である〔SD42〕に接続する可能性がある。

本遺跡は、15世紀末頃（Ⅰ期）と15世紀末～16世紀中葉（Ⅱ期）それぞれの時期に区画された生活居住域があったものと推定される。

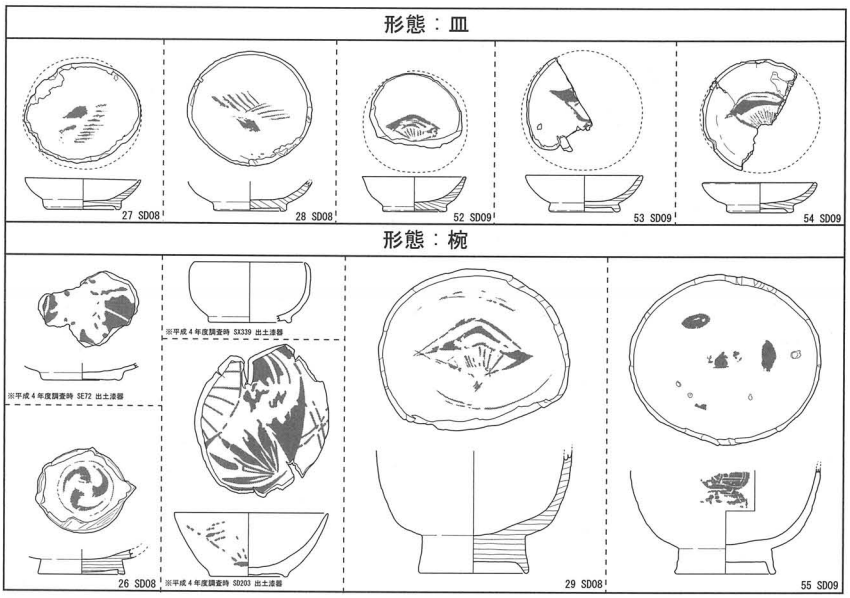


第9図　遺構配置図(1/600)

第２項　出土漆器から見る遺跡背景

本遺跡は地下水位が高い湿地帯であるため、木製品の保存状態が良好であった。SD08・09内からは合計15点（破片・未実測品含む）の漆器が出土している。ここでは、簡単に特徴をまとめる。尚、漆器は未同定であり、色調は実見したままを表記している。

漆器の器種は皿と椀である。椀は高台が高くなり底厚が厚いもの（29・55）・高台内面が丸みを帯びるもの（26）・高台が低く底厚が薄いもの（平成４年度出土漆器）が確認できる。高台が低い椀は立ち上がりが垂直のもの・やや外側にふんばるものとにわけられる。皿は高台が垂直に立つもの・外側にふんばるものが確認できる。上塗色は主に総黒色漆塗りで、他に内外面赤色漆塗りが２点（小皿破片、１点の高台内側は黒色漆塗り仕上げ）出土している。文様は主に扇文が描かれ、他に植物系文、三つ巴文が描かれている。また、破片の為未掲載だが、紅葉を描いた漆器も出土している。No.55は外面に引掻（針描）技法を用いて描かれており高い漆工技術が伺える。樹種同定を行った３点のうちNo.29がトチノキ科トチノキ属、他２点（未実測）がブナ科ブナ属であった。塗膜は未分析のため下地は不明である。木胎の特徴・器種形態・描かれている文様から、本遺跡で出土した漆器は15世紀末～16世紀中葉の普及品と考えられ、漆・漆器が日常に欠かせない生活用品だったと推定される。



第10図　白石遺跡出土漆器一覧（1/6）

第３項　まとめ

平成20年度調査では、平成４年度確認された生活居住域の南東側境界がSD06・07（Ⅰ期）とSD08・09（Ⅱ期）に分かれることが確認できた。また、SD08・09の大溝内に廃棄された漆器は、小出城跡（富山市）・木舟城跡（高岡市）・梅原胡摩堂遺跡（南砺市）等、県内の主要な中世城館跡出土漆器と共通した文様・形態であり、本遺跡は15世紀末～16世紀中葉にかけて中世居館として重要な位置を担っていたと考えられる。

引用・参考文献

射水市教育委員会 1994 『小杉町白石遺跡発掘調査報告』

福岡町（現高岡市）教育委員会 2002『木舟城跡発掘調査報告』

富山市教育委員会 2006『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』

富山市教育委員会 2006『富山城発掘調査報告書』

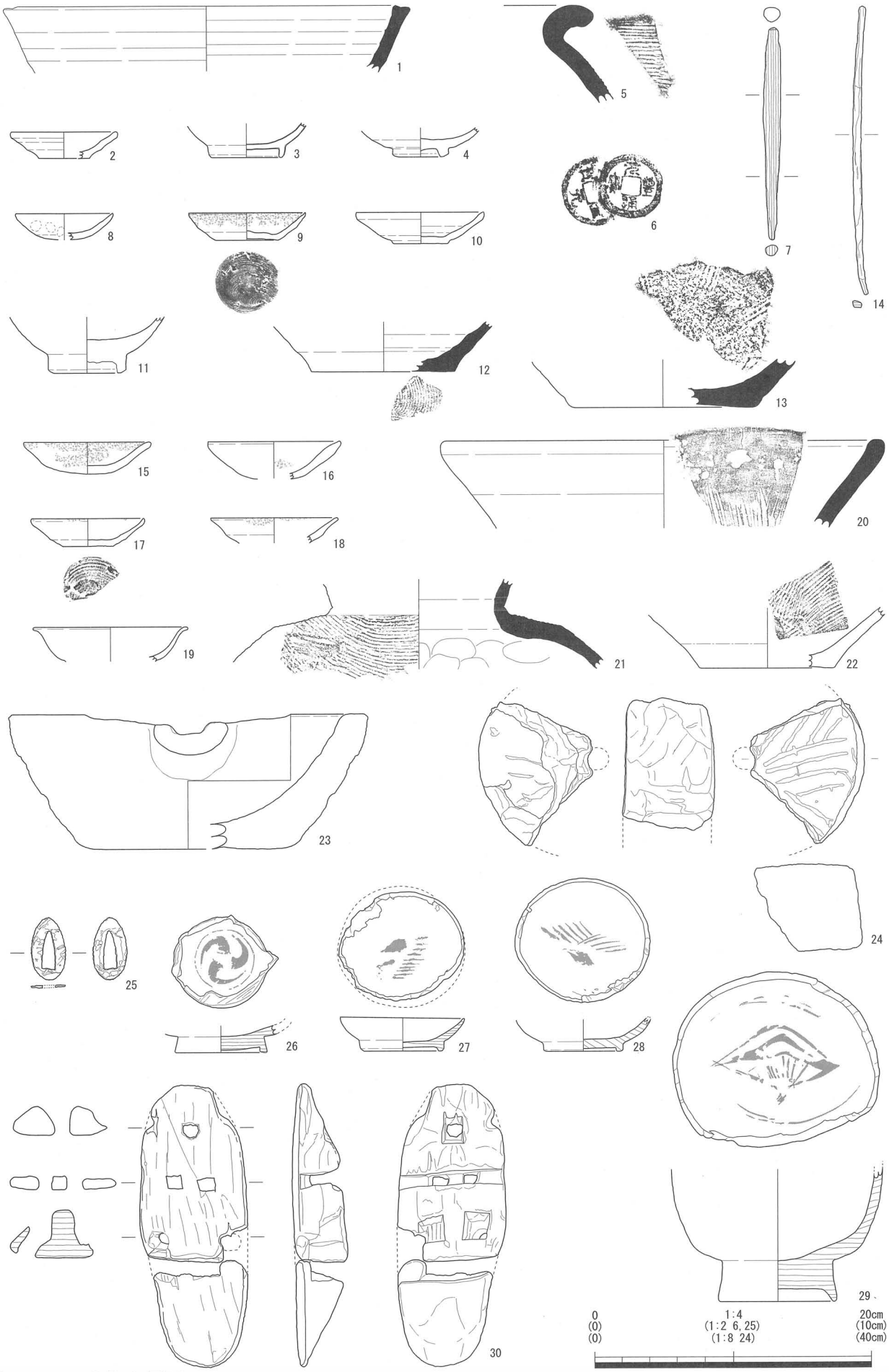
富山市教育委員会 2007『富山城跡試掘確認調査報告書』

富山市教育委員会 2007『富山市小出城跡発掘調査報告書』

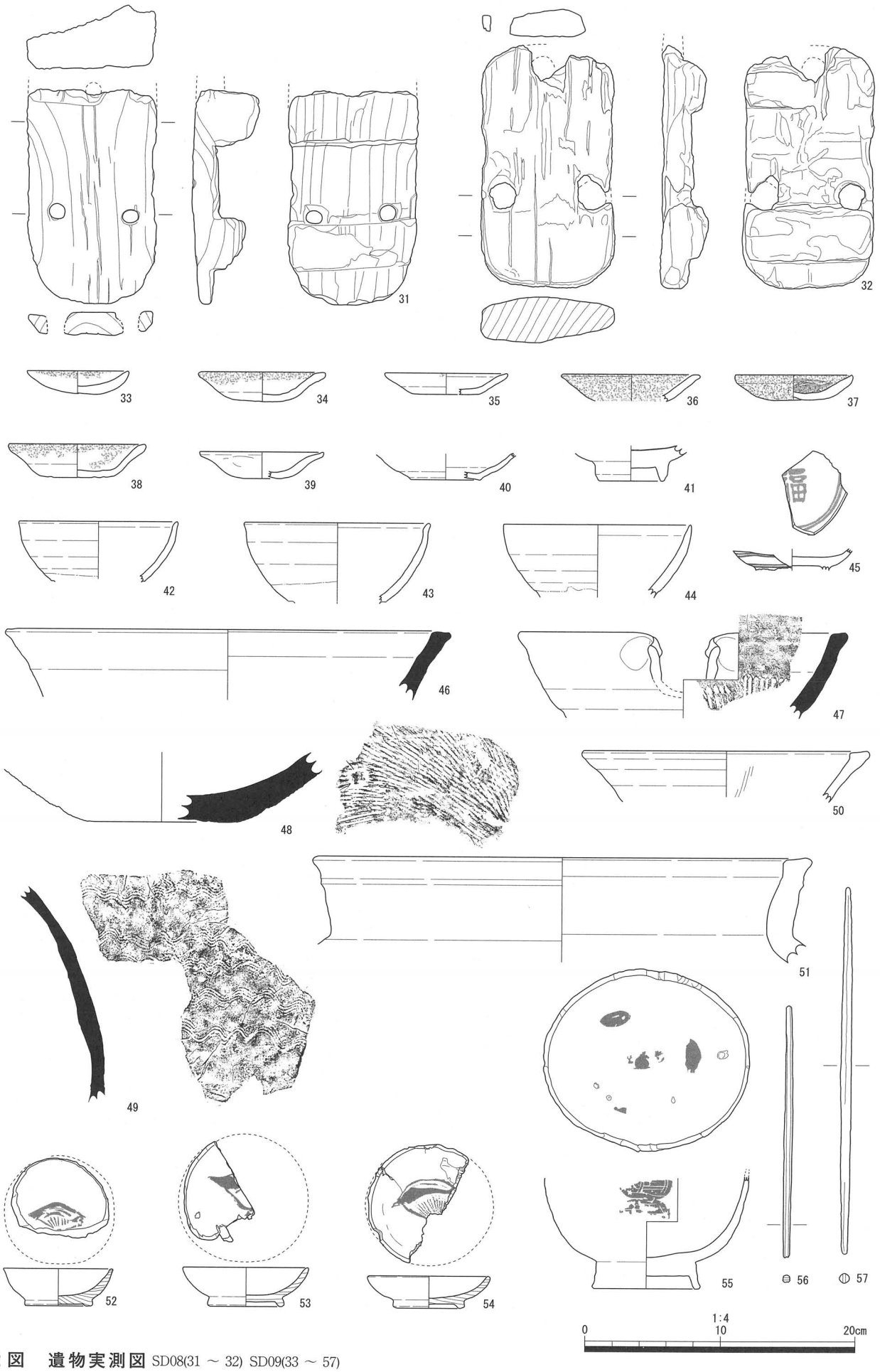
江戸遺跡研究会 2001『図説　江戸考古学研究辞典』柏書房

宮田進一 1997『越中国における土師器の編年』『中・近世の北陸 - 考古学が語る社会史 -』北陸中世土器研究会編

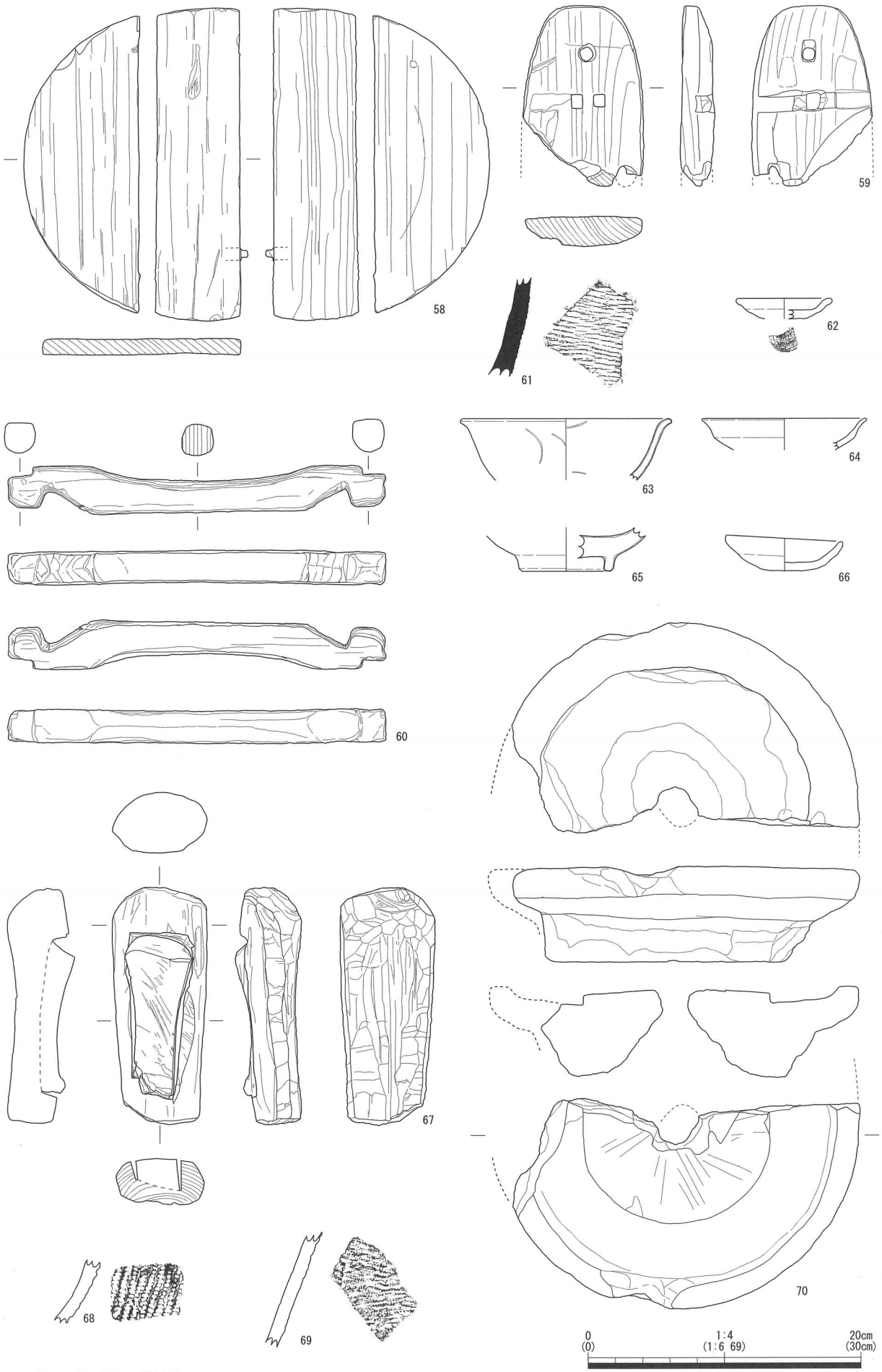
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1996『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』



第 11 図　遺物実測図 SD01(1) SD06(2 ～ 7) SD07(8 ～ 14) SD08(15 ～ 30)



第 12 図　遺物実測図 SD08(31 ～ 32) SD09(33 ～ 57)



第 13 図　遺物実測図 SD09(58 ～ 60) SD40(61) SD48(62) SD53(63) SD100(64) SK03(65) SK42(66) SE96(67) 包含層(68,69) 表土中(70)

第３表　遺物観察表

挿図 No.	遺物 No.	グリッド	地区・遺構名	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	焼成	備考
11	1	A3-9	A 区 SD01	珠洲	擂鉢	29.0	-	-	密	良	-
	2	B3-7	B-1 区 SD06	中世土師器	皿	7.4	1.9	3.6	密	良	ロクロ成形
	3	B3-13	B-1 区 SD06	白磁	碗	-	-	4.6	密	良	釉灰白色
	4	A3-5	A 区 SD06	白磁	碗	-	-	4.0	密	良	釉灰白色
	5	B3-24	B-1 区 SD06	珠洲	甕	(38.0)	-	-	密	良	-
	8	B3-14	B-1 区 SD07	中世土師器	皿	7.0	1.9	(4.2)	密	良	非ロクロ成形
	9	B3-25	B-1 区 SD07	中世土師器	皿	8.6	2.0	4.5	密	良	ロクロ成形・回転糸切痕・口縁部に油煙付着
	10	B3-14	B-1 区 SD07	中世土師器	皿	9.2	2.3	4.1	密	良	ロクロ成形・回転糸切痕
	11	B4-5	B-1 区 SD07	青磁	碗	-	-	5.5	密	良	釉灰黄色・断面一部に煤付着
	12	B3-14	B-1 区 SD07	珠洲	擂鉢	-	-	10.3	密	良	回転糸切痕
	13	B3-14	B-1 区 SD07	珠洲	擂鉢	-	-	13.6	粗	良	卸し目
	15	D4-6	B-2 区 SD08	中世土師器	皿	9.3	2.3	(3.6)	密	良	非ロクロ成形・口縁部に油煙付着
	16	D4-2	B-2 区 SD08	中世土師器	皿	9.3	2.7	(4.4)	密	良	非ロクロ成形・内面底部一部に油煙付着
	17	D4-1	B-2 区 SD08	中世土師器	皿	8.2	2.1	3.7	密	良	ロクロ成形・回転糸切痕・口縁部に油煙付着
	18	D4-2	B-2 区 SD08	中世土師器	皿	9.2	-	-	密	良	ロクロ成形・口縁部に油煙付着
	19	D4-2	B-2 区 SD08	白磁	皿	11.2	-	-	密	良	-
	20	D4-6	B-2 区 SD08	珠洲	擂鉢	32.6	-	-	やや粗	やや不良	卸し目
	21	D4-6	B-2 区 SD08	珠洲	甕	-	-	-	密	良	破損後被熱 (煤付着)
	22	D4-1	B-2 区 SD08	越中瀬戸	擂鉢	-	-	9.8	密	良	錆釉 (暗赤褐色)・卸し目・回転糸切痕
12	33	C4-14	B-2 区 SD09	中世土師器	皿	7.5	1.7	(2.8)	密	良	非ロクロ成形・口縁部に油煙付着
	34	C4-14	B-2 区 SD09	中世土師器	皿	9.3	2.2	(4.2)	密	良	非ロクロ成形・口縁部に油煙付着
	35	C4-7	B-2 区 SD09	中世土師器	皿	8.8	1.6	4.9	密	良	ロクロ成形・口縁部に油煙付着
	36	C4-13	B-2 区 SD09	中世土師器	皿	9.8	-	-	密	良	全面に煤付着
	37	C1-21	C 区 SD09	中世土師器	皿	8.6	1.9	(5.0)	密	良	非ロクロ成形・へそ皿状・全体に煤付着
	38	C2-7	C 区 SD09	中世土師器	皿	10.0	2.5	(5.5)	密	良	非ロクロ成形・全体に煤・口縁部に油煙付着
	39	C2-1	C 区 SD09	中世土師器	皿	8.9	2.0	(2.6)	密	良	非ロクロ成形・へそ皿状
	40	C2-7	C 区 SD09	中世土師器	皿	-	-	5.2	密	良	ロクロ成形・回転糸切痕
	41	C4-3	B-2 区 SD09	青磁	碗	-	-	4.6	密	良	竜泉窯系・青磁釉（オリーブ灰色）
	42	C4-13	B-2 区 SD09	瀬戸美濃	天目茶碗	11.8	-	-	密	良	鉄釉（黒褐色）・体部外面下部は錆釉（褐色）
	43	C4-9	B-2 区 SD09	瀬戸美濃	天目茶碗	13.8	-	-	密	良	鉄釉（黒褐色）・体部外面下部は錆釉（褐色）
	44	C4-3	B-2 区 SD09	瀬戸美濃	天目茶碗	13.8	-	-	密	良	鉄釉（黒褐色）・体部外面下部は露呈
	45	C3-23	B-2 区 SD09	伊万里	碗	-	-	6.5	密	良	染付（くすんだ青色）・底部内面中央に『福』
	46	C4-3	B-2 区 SD09	珠洲	擂鉢	32.6	-	-	密	良	卸し目
	47	C4-7	B-2 区 SD09	珠洲	擂鉢	24.0	-	-	やや粗	不良	片口あり・卸し目
	48	C3-23	B-2 区 SD09	珠洲	甕	-	-	11.4	やや粗	良	-
	49	C4-3	B-2 区 SD09	珠洲	壺	-	-	-	密	良	R 種壺・櫛目波状文
	50	C4-3	B-2 区 SD09	越中瀬戸	擂鉢	21.0	-	-	密	良	錆釉（暗赤褐色）・卸し目
	51	C2-7	C 区 SD09	越前	甕	(37.0)	-	-	密	良	体部外面に降灰釉（オリーブ色）
13	61	B4-3	B-1 区 SD40	珠洲	甕	-	-	-	密	やや不良	-
	62	D3-22	B-2 区 SD48	瀬戸美濃	端反皿	6.7	1.5	2.8	密	良	内面～口縁部外面施釉（灰オリーブ色）・回転糸切痕
	63	C2-5	C 区 SD53	青磁	碗	15.4	-	-	密	良	竜泉窯系・青磁釉（翡翠色）・漆継ぎ痕
	64	C2-8	C 区 SD100	瀬戸美濃	端反皿	11.7	-	-	密	良	釉（灰オリーブ色）
	65	B3-21	B-1 区 SK03	青磁	碗	-	-	6.4	密	良	竜泉窯系・青磁釉（オリーブ灰色）
	66	B3-24	B-1 区 SK42	中世土師器	皿	8.6	2.6	(2.6)	やや粗	良	非ロクロ成形
	68	A3-9	A 区 包含層	縄文	-	-	-	-	-	-	-
	69	B3-14	B-1 区 包含層	縄文	-	-	-	-	-	-	-

第４表　遺物観察表（金属製品）

挿図 No.	遺物 No.	グリッド	地区・遺構名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (g)	備考
11	6	B4-3	B-1 区 SD06	銅銭	2.4(径)		0.1	3.0	元豊通寶 (1078、北宋、篆書)
					2.4(径)		0.1	4.0	元豊通寶 (1078、北宋、篆書)
					2.5(径)		0.15	3.0	天聖元寶 (1023、北宋、真書)
	25	D4-2	B-1 区 SD08	鍔	4.6	2.5	0.15	6.0	-

第５表　遺物観察表（石製品）

挿図 No.	遺物 No.	グリッド	地区・遺構名	種別	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重量 (kg)	備考
11	23	C4-10	B-2 区 SD08	石製品	片口鉢	26.0（口径）	9.8（器高）	13.8（底径）	-	桑山石製品
	24	D4-3	B-2 区 SD08	石製品	石臼	19.0	16.0	12.8	4.0	-
13	67	B3-24	B-1 区 SE96	石製品＋木製品	砥石	17.3	6.9	4.5	-	砥石が木枠に嵌め込んである　仕上げ砥石　鳴滝石 砥石 12.0cm × 5.0cm × 3.5cm
	70	C1-22	C 区 表土中	石製品	茶臼	(38.5)	(23.0)	10.5	8.2	下臼部分

第６表　遺物観察表（漆器）※塗膜は未同定であり、地色は実見に基づく

挿図 No.	掲載 No.	グリッド	地区・遺構名	器種	器径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	地色 外面	地色 内面	文様	樹種	備考
11	26	D4-6	B-2 区 SD08	椀	-	(2.0)	6.4	総黒色漆塗り		三つ巴	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	27	D4-6	B-2 区 SD08	小皿	(9.0)	(2.4)	5.6	総黒色漆塗り		松？	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	28	D4-6	B-2 区 SD08	小皿	(9.8)	(2.3)	5.6	総黒色漆塗り		松？	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	29	D4-6	B-2 区 SD08	椀	8.2	9.7	8.4	総黒色漆塗り		扇	トチノキ科トチノキ属トチノキ	15 世紀末～ 16 世紀中葉
12	52	C3-23	B-2 区 SD09	小皿	8.1	2.8	6.0	総黒色漆塗り		扇	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	53	C4-13	B-2 区 SD09	小皿	(9.1)	(2.9)	5.2	総黒色漆塗り		扇	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	54	C4-8	B-2 区 SD09	小皿	(8.7)	(2.4)	5.2	総黒色漆塗り		扇	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉
	55	C3-23	B-2 区 SD09	椀	-	(8.4)	(7.7)	総黒色漆塗り		俵？	未同定	15 世紀末～ 16 世紀中葉

第７表　遺物観察表（木製品）

挿図 No.	遺物 No.	グリッド	地区・遺構名	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	備考
11	7	B4-3	B-2 区 SD06	不明木製品	15.6	1.25	1.0	先が尖る
	14	B3-25	B-2 区 SD07	箸状木製品	20.7	0.6	0.5	方形
12	30	C4-10	B-2 区 SD08	下駄	(25.5)	7.9	3.7	露卵下駄
	31	D4-2	B-2 区 SD08	下駄	(15.9)	9.5	4.7	連歯下駄
	32	D4-2	B-2 区 SD08	下駄	(17.8)	9.8	3.3	連歯下駄
	56	C4-4	B-2 区 SD09	箸状木製品	18.75	0.6	0.6	方形
	57	C4-3	B-2 区 SD09	箸状木製品	26.3	0.7	0.8(径)	円形
13	58	C4-13	B-2 区 SD09	曲げ物底板	(23.0)	(14.5)	1.2	組みもの
	59	C4-13	B-2 区 SD09	下駄	(13.1)	8.8	2.5	露卵下駄
	60	C4-3	B-2 区 SD09	不明木製品	27.7	3.5	2.5	釣瓶用部材か

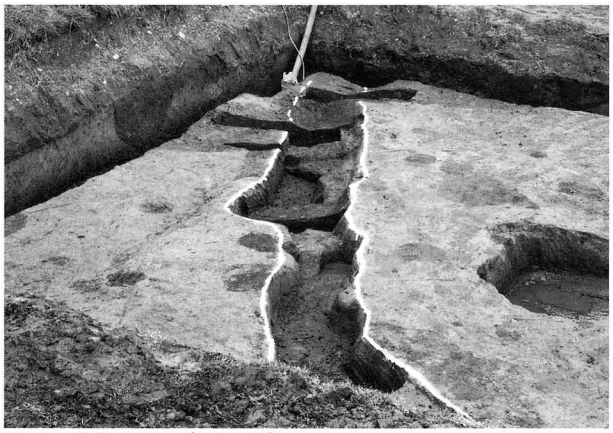
調査区全景（西から）

B-2 区 SD08 遺物出土状況（西から）

[A 区]　図版 2

調査区完掘状況（北から）

SD01 遺物出土状況（南から）

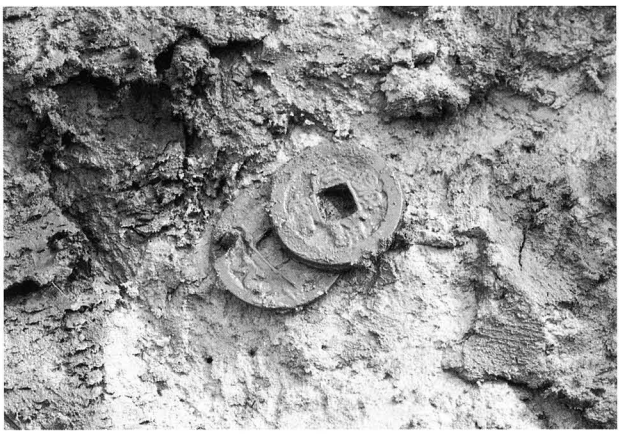


SD01 完掘状況（南から）

SD06 遺物出土状況（北から）

SD06 完掘状況（北から）

調査区完掘状況（北から）



SD06 銅銭出土状況（西から）

SE96 遺物出土状況（北から）

SD07 土層（南から）

SD07 完掘状況（南から）

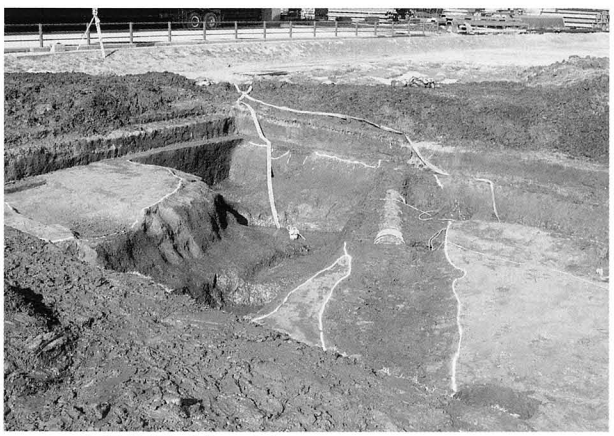
[B-2 区]　図版 4

調査区完掘状況（西から）

SD08 遺物出土状況（南西から）

SD08 完掘状況（西から）

SD09 遺物出土状況（南から）



SD09 完掘状況（南から）

調査区完掘状況（南西から）

SP86 柱根出土状況（南から）

SP69 完掘状況（南西から）

SD09 遺物出土状況（北から）

SD09 土層（北から）

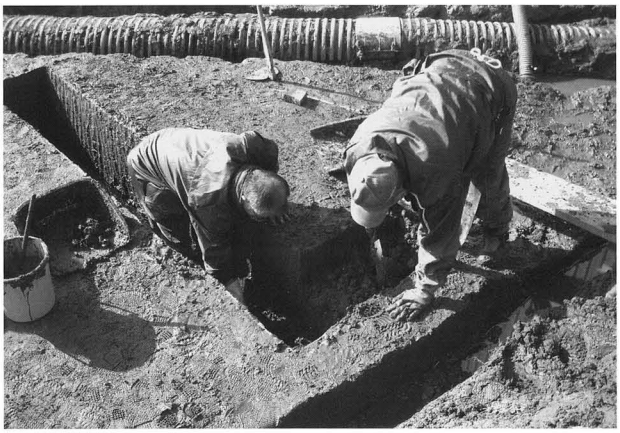
［作業風景等］　図版６

重機掘削（南から）

調査区壁切り作業（南から）

測量風景（南から）

測量風景（南から）

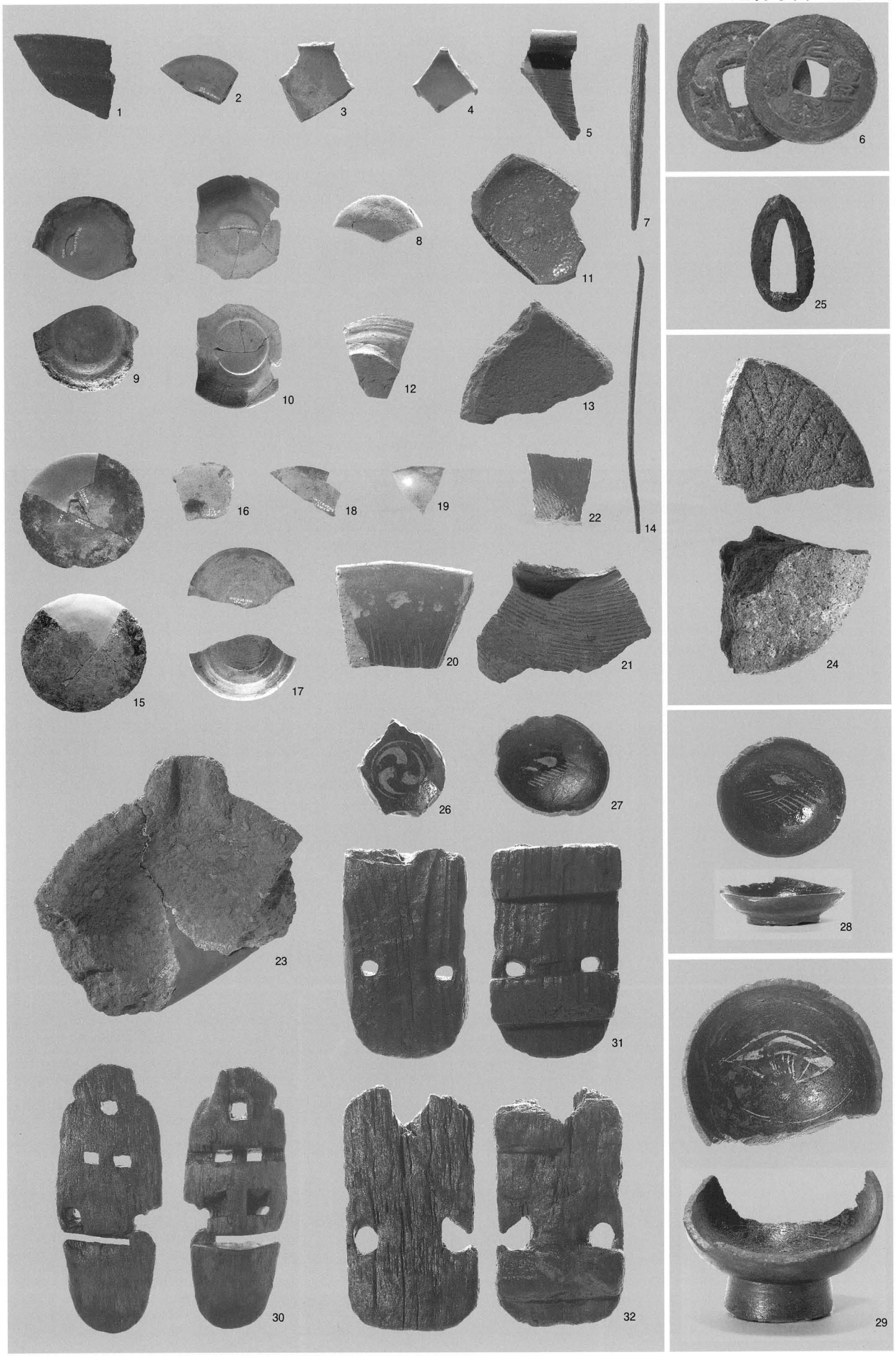


遺構掘削作業（北から）

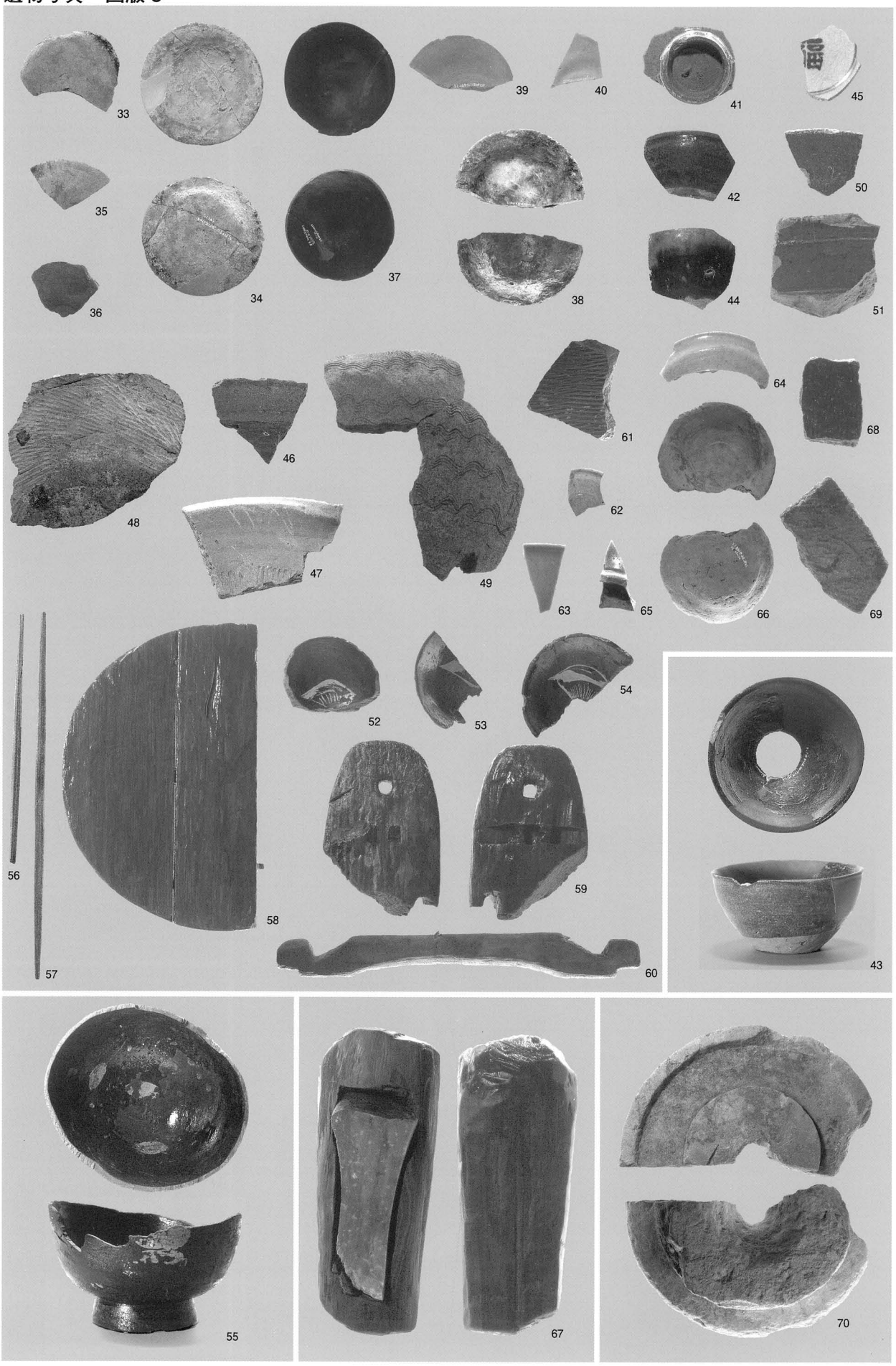
遺構掘削作業（西から）

遺構掘削作業（西から）

調査区埋め戻し作業（南西から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

遺物写真　図版８


33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70

報告書抄録

ふりがな	しらいしいせきはっくつちょうさほうこくよん
書名	白石遺跡発掘調査報告Ⅳ
副書名	河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う発掘調査
編著者名	金三津英則（射水市教育委員会） 稲垣裕二　菊地由里子　朝田要（北陸航測株式会社）
編集機関	1) 射水市教育委員会 2) 北陸航測株式会社
編集機関所在地	1) 〒933-0292　富山県射水市加茂中部 893 番地 2) 〒933-0866　富山県高岡市清水町 3-4-40
発行年月日	西暦 2009 年　5 月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
白石遺跡（しらいしいせき）	富山県射水市（とやまけんいみずし） 鷲塚（わしづか）	16211 (16381)	066 (006)	36° 43′ 23″	137° 7′ 38″	20081201 ～ 20090213	337㎡	新幹線関連事業に伴う濁水処理施設移設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白石遺跡	富山県射水市 鷲塚	中世	溝 土坑 井戸 ピット 不明遺構	中世土師皿・珠洲・青磁・白磁・瀬戸美濃・越前・伊万里・越中瀬戸・銅銭・鍔・石臼・茶臼・木製品	

要約

平成 20 年度調査では、平成 4 年度同様、居住区を区画すると推定される大溝を検出した。外周を区画すると考えられる大溝からは主に、中世土師皿・珠洲・青磁・瀬戸美濃・木製品など 15 世紀末～ 16 世紀中葉頃の遺物が出土している。

※ コード欄の () 内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

白石遺跡発掘調査報告Ⅳ

- 河上金物株式会社濁水処理施設移設に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

平成 21 年 5 月 29 日
発行　射水市教育委員会
編集　射水市教育委員会
　　北陸航測株式会社
印刷　株式会社チューエツ